



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

<http://kyoukita.jp/nonoyama/> mail@ken-nonoyama.com

No.481 2018.6.27

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談はお気軽に **090-2156-3510**

ブロック塀の点検早急に

大阪北部地震うけ、日本共産党東京都議団が知事・教育委に申し入れ



東京都にブロック塀の点検等を申し入れる日本共産党都議団 =21日、東京都庁

大阪北部地震で高槻市の小学校のブロック塀が倒壊し、9歳の女児が死亡したのを受けて、日本共産党東京都議団は21日、小池百合子知事と都教育委員会に申し入れを行い、①学校のブロック塀な

ど工作物の安全点検を国や区市町村と協力して速やかにを行い、結果を公表する、②耐震性が不十分なブロック塀は早急に補強や生垣への転換を行い、区市町村にも技術的・財政的支援を行う、③私立学校に必要な情報提供や支援を行う、④通学路の安全点検を自治体の責任で実施し学校に情報提供する、の4点を求めました。

これに対し都教育庁の担当者は、「ブロック塀の危険調査は初めて行う。結果を見て今後の対応を検討したい」と応えました。

今回の事故を受け、文部科学省は19日、学校の安全点検等を行うよう通知、

都も調査を学校や区市町村に依頼しました。

北区は緊急現況調査を実施

22日の北区議会文教子ども委員会で、区教育委員会から「19日、20日に職員が手分けして全学校について緊急現況調査を行い、危険箇所が数カ所見つかった。詳しい調査結果は7月2日の防災対策特別委員会に報告する」との説明がありました。

これを受けて、のの山けん議員は、「危険箇所については現場への注意喚起が必要。目視での調査に加え、今後、より詳細な調査を実施すべきではないか」と指摘しました。

**ロウソク革命の息吹を
ヒューマンサウンドに乗せて
「サム・トゥッ・ソリ」北とぴあ公演**

22日、北とぴあで「サム・トゥッ・ソリ」(삼·뜻·소리=“人生·意志·声”)の公演を鑑賞。民衆の力で腐敗した政権を倒した韓国「ロウソク革命」の息吹を伝えるアコースティックサウンドに心揺さぶられ、東京朝鮮学校合唱部の「アリラン」に涙。勇気もらいました。(のの山けん)

サム・トゥッ・ソリネットワーク
セブチアム www.sevchi.com
03-5561-2222
03-5561-2223

2018年 6月22日(金)

昼の部 14:30開演
夜の部 19:00開演
※開演は開演30分前

【料金】
指定席 4,000円
自由席 3,000円
ペア席(2名) 7,000円

北とぴあ さくらホール
東京都豊島区王子本町1-15-22
東京朝鮮学校(王子校)北とぴあ徒歩約2分
東京朝鮮学校(王子校)王子校徒歩約10分
東京朝鮮学校(王子校)王子校徒歩約5分



人間として譲れないものは

「空飛ぶタイヤ」 本木克英監督

脱輪した大型トレーラーのタイヤが歩行中の母子を襲うという事故の責任をめぐり、中小企業の運送会社と大手自動車メーカーが真っ向から対立する。90人の従業員の生活と自らの仕事への威信をかけてたたかう赤松社長に対し、ホープ自動車のトップが守ろうとするのは利潤という名の「社益」である。マスクミ報道や遺族からの抗議、手のひらを返すように仕事や融資を打ち切る関連会社・銀行の対応など、

絶体絶命の危機に直面しながら、一人の社員をも犠牲にさせまいと、ましくも尊厳に満ちている。一方、巨大な組織力を持つ大企業と、それを支えるメインバンクでは、会社の利益の前に人の命も、事実すらも、さしたる意味を持たないかのような行動原理が貫かれる。

完全に「勝負あり」の状況に、誰がどのようにならざるを得ないのか、謎解きのような展開にぐいぐいと引き込まれていくのは、池井戸潤の原作が、現代社会の根源的な矛盾を鋭く突いているからに他ならない。原作の味わいをそこなう省略や設定変更を差し引いても、映画として世に出した意味は大きいといえよう。

誰も知らない家族の秘密

「万引き家族」 是枝裕和監督

映画は、父と子がスーパーで万引きをする場面から始まる。衝撃的なタイトルだが、万引きが悪いと規範を説くのも、貧困家庭が哀れだと訴える映画でもない。キーワードは「居場所」だ。

6人家族のそれぞれが、現代社会の“ある事情”を抱えた人物たちである。傍目から見れば犯罪者か、そのギリギリのところを生きている人々だが、本人たちに悪びれる様子はなく、「店に並んでいる商品は、まだ誰

のものでもない」、「店が困らなければいいんじゃない」と、万引きを合理化してはばからない。そんな彼らにとって、都会の片隅で人目を忍んで身を寄せ合う古い一軒家の中こそ、居場所と幸福がある。

是枝監督は、ここ10年ほど考え続けてきたことを、各年代で最もふさわしい俳優を集めて映画にしたという。役者の演技に合わせてその都度台詞を書き換え、台本を書き足していくという独特の手法で、現実以上に現実的な社会の断面を描くことに成功した。カンヌ映画祭でのパルムドール受賞。経済大国と称される日本の首都東京で繰り広げられる家族の営みを、世界は衝撃を持って受け止めたに違いない。

